

図画工作科学習指導案

実施期間 平成23年 9月28日(水)～11月2日(火)
実施学年 第5学年 授業者 新島 英幸

I 題材名 「想ぞうのつばさを広げて」

II 題材の考察

1 児童の実態 (略)

2 題材の価値

本題材は、物語の中で、心ひかれた場面の様子や登場人物の気持ち、雰囲気などがよく表れるように、構図や色の使い方を工夫して絵に表すものである。

物語絵を製作する上でのポイントは三つある。一つ目は、場面の様子や雰囲気、登場人物の気持ちを感じ取り、自分なりの思いをもつことである。物語全体を通して感じる場合もあるし、一つ一つの言葉や文章表現の中から感じられる場合もある。また児童は、物語を楽しく感じたり悲しく感じたり、自分の生活経験と照らし合わせて感じるため、受け止め方は人それぞれである。二つ目は、感じた思いを形や色に置き換えて、視覚的に表現することである。形や色は、見る人に様々なイメージを与えてくれる。例えば、丸い形から穏やかなイメージを受けたり、とがった形から緊張感のあるイメージを受けたりする。色についても、明るい色から楽しいイメージを受けたり、濁った色から暗いイメージを受けたりする。しかし、イメージを感じ取れても、何もない状態から表現することは難しい。そこで、何回も描いたり描き直したりを繰り返し、イメージを膨らませ、徐々に自分の思いに近付けていく作業を行う。そして、三つ目は、自分の思いが相手に伝わるように形や色、画面構成を考えながら自分らしい表現方法を見付けていくことである。ここでは、アイデアスケッチを並べたり並べ直したり、トリミングしたり重ねたりして、試行錯誤しながら画面を構成していく。この一連の流れの中で、前回の実践同様に、「みっけタネ」を手がかりに、「図画工作科ノート」を活用した様々な試し活動を行っていく。

自分の気持ちを表現することに躊躇してしまう児童にとって、上記のように自由に思いを表現できる試し活動をすることは、発想や構想する力を高める上で有効であると考えられる。

3 題材の系統

3・4年(上)	⇒	5年・6年(上)
・「これでかけるよ」 ・「グルグルかくかく」 ・「広がれ生き物ワールド」		・「え?名前で絵」 ・「気持ちを表す形や色」 ・「想像のつばさを広げて」(本題材)
3・4年(下)		5年・6年(下)
・「キラキラ光る絵」 ・「絵の具のふしぎ」 ・「ぬのから生まれた」		・「形や色を楽しもう」 ・「墨から感じる形や色」 ・「ぞうけいずかん 伝える形、伝える色」

4 指導方針

(1) イメージを膨らませる段階では

- 使用する物語は、共通のものとし、表したい場面を選択する。
- 物語は、挿絵を取り除いて事前に児童に配布してよく読み込めるようにする。
- 参考作品は、教師が描いた作品や意図的に選んだ作品を使用する。
- 参考作品は拡大したものを5～6人に1セット配布し各グループごとに鑑賞する。
- 「グローアップチャート『みっけタネ』」の活用について

「みっけタネ」①	形や色を視点として、作品から受けるイメージや作者の表現意図を読み取る。
「みっけタネ」②	形や色を視点として、自分の思いをイメージし、形や色を使って効果的に表す。

- 「図画工作科ノート」の活用について
 (「アイデアスケッチを描く」「材料を組み合わせる場にする」) など

(2) イメージを練り上げる段階では

- 参考作品を鑑賞する時には、意見を交流しながら気づきの共有化と広がりを図る。ただし、見方や感じ方が偏らないように、人それぞれ様々な感じ方があるということを補足しておく。
- 構想の場面では、「線や形がつくりだす動き」「色の調子」「材料の質感」「組み合わせによって生まれる変化」「響き合う配置」「奥行きを感じや方向感」「色の組み合わせによる強さ」などを当てはめて考える。また、描きためたアイデアスケッチを並べたり並べ直したり、トリミングをしたり重ねたりして画面構成を考える。
- 「グローアップチャート『みっけタネ』」の活用について

「みっけタネ」③	相互鑑賞で感想を交流し合い、他者の見方や考え方に気づき、発想を広げていく
「みっけタネ」④	発想を具現化し、より自分の意図する表現へ近付けるための構想を練り上げる。

- 「図画工作科ノート」の活用について
 (「広げたイメージを振り返ったり、確かめたりする」「イメージの変容を見直す」「アイデアスケッチを見直す」「アイデアスケッチを描き加える」「アイデアスケッチを組み合わせる」「相互鑑賞で互いの意見を書き込む」) など

III 目標及び評価規準 (報告書P5参照)

IV 指導計画 (報告書P5参照)

V 本時の学習 (1・2時間目/9時間)

1 ねらい

物語の中で、心ひかれた場面の様子や登場人物の気持ちを感じ取り、製作に向けての見通しをもつ

2 準備

教師：参考作品、「みっけタネ」、スポンジ、ローラーなど
 児童：「図画工作科ノート」、鉛筆、絵の具など

3 展開

過程	時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
		一線は〔共通事項〕を視点とした「みっけタネ」の活用、～線は「図画工作科ノート」の活用、□観点(評価方法)	
	20分	<ul style="list-style-type: none"> *事前に「雪渡り」を読み込んでおく。 1 形や色で登場人物の気持ちや場面の雰囲気が表せることを知る。 ・4枚の「銀河鉄道の夜」の参考作品を比較し、感じたイメージや気付いとを話しあう。 ・作品の解説文を簡潔に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> *事前に「雪渡り」の資料を配付しておく。 ○「みっけタネ」①で、形や色を手がかりとした鑑賞の視点と思考のプロセスを提示する。 ○5～6人の班で活動し、各グループに、拡大した参考作品を配布しておく。 ○「みっけタネ」の吹き出しで、鑑賞の視点やプロセスを一斉指導で確認する。 ○主張色による感じ方の違いや中心に描かれた人物や物、構図の違いを比較することによって、それぞれの作者の表現意図に気付く(何を一番描きたかったのだろう)。 ○いつ、どこで、何が、どうしたなど焦点化しやすい文で書く。 ○説明文を書くことによって、作品の読み取りをより確かなものにし、自分の作品の主題を決める時に役立つ。 ○最後に、全体で意見を交流させながらいろいろな考えに触れ、見方や考え方を広げる。
		2 学習課題を知る	
		学習課題 感動した場面を、登場人物の気持ちや物語の雰囲気などがよく表れるよう	

イメージを膨らませる段階	25分	<p>に、人物や風景の置き方や色の使い方を工夫して絵に表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雪わたり」を読み、表したい場面を考える。 ・製作に向けての思いを持ち、主題を決める。 ・登場人物の気持ちや場面の雰囲気や場面の雰囲気を想像して主題についての説明文を書く。 ・表現に結び付く言葉に下線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「みっけタネ」②で、形や色を手がかりとした発想の視点と思考のプロセスを提示する。 ○「感動した場面」「登場人物の気持ち」「物語の雰囲気」などの表現の核となる言葉を補足し、表したい場面をイメージできるようにする。 ○いつ、どこで、何が、どうして、どうなったなど焦点化しやすい文で、作品の説明文を簡潔に書く。 ○説明文を書く際には、登場人物の気持ちや場面の雰囲気を意識して書くように補足しておく。 ○下線を引いたところを、場面構成の時に生かすことを伝える。 ○製作する作品をイメージして、いつ、どこで、何が、どうしたなど表現に結び付くところに下線を引く。
	30分	<p>3 主題を基に背景を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題からイメージした主張色を基に「<u>図画工作科ノート</u>」で、<u>試し活動を繰り返し、イメージを具現化していく。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>主題に合った登場人物の気持ちや場面の雰囲気を、色で表したらどのような色になるか問いかけながら主張色を見付ける。</u> ○<u>絵の具を滲ませたり垂らしたり、ローラーで型押ししたり、ブラシを使ったりするなどの表現方法を紹介する。また、教室の一角に用具を置き、試し活動ができる場をつくっておく。</u> <p>< B の児童への手だて > 児童との会話から表現の意図を聞き取り、発想の視点と照らし合わせながら、製作へのアドバイスする。</p> <p>< B に達していない児童への手だて > 児童との会話から表現の意図を聞き取り、教師が具体的な操作を行いながら、製作へのアドバイスをする。</p>
	15分	<p>4 登場人物や登場する物など、物語の構成に必要なものを考え、<u>アイデアスケッチをする。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>主題説明文の下線部の場面を想像しながら、一つ一つスケッチしながら形づくっていく。</u> ○登場人物の気持ちや動き、役割に重点をおいて描き、児童と会話しながら表現意図をつかみ、細かい助言をしていく。 ○アイデアスケッチは鉛筆を用い、色味を確かめるために必要に応じて色鉛筆で彩色する。 ○次時にも続きを行うことを知らせる。

V 本時の学習（3・4時間目／9時間）

1 ねらい

物語の中で、心ひかれた場面の様子や登場人物の気持ち、雰囲気などがよく表れるように、様々な表現方法を試し、構成を考える。

2 準備

教師：参考作品、「みっけタネ」、デジタルカメラなど

児童：図画工作科ノート、鉛筆、色鉛筆、ハサミ、絵の具など

3 展開

過程	時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
		一線は〔共通事項〕を視点とした「みっけタネ」の活用、～線は「図画工作科ノート」の活用、□観点(評価方法)	
	1	登場人物や登場	○主題説明文の下線部の場面を想像しながら、一つ一つスケッチし

45分	<p>する物など、物語の構成に必要なものを考え、アイデアスケッチをする。 (前時の続きを行う)。</p>	<p>ながら形づくっていく。</p> <p>○登場人物の気持ちや動き、役割に重点をおいて描き、児童と会話しながら表現意図をつかみ、細かい助言をしていく。</p> <p>○アイデアスケッチは鉛筆を用い、色味を確かめるために必要に応じて色鉛筆で彩色する。</p>
イメージを練り上げる段階 25分	<p>2 途中の鑑賞会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互鑑賞し感想を交流し合い、感想を付箋紙に書いてアイデアスケッチに貼り合う。 新たに気付いたことを発表し合う。 <p><相互鑑賞のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 説明の文とアイデアスケッチを比べて、表現意図や方法を見付ける。 自分の作品の参考となるアイデアや工夫はないか。 背景からは、物語全体のイメージや雰囲気、登場人物からは、動きや物語の構図を参考にする。 どこが参考になったかを明確にして、自分の作品に生かす。 	<p>○「みっけタネ」③で、再度形や色を手がかりとした鑑賞の視点と思考のプロセスを提示する。</p> <p>○「みっけタネ」を使って一斉に鑑賞の視点やプロセスを確認する。</p> <p>○教室を自由に移動して相互鑑賞する。その際に、鑑賞のきまりを守り、マイナスのコメントは書かないようにする。</p> <p>○全体で意見を交流させながらいろいろな考えに触れ、見方や考え方を広げる。</p> <p>< Bの児童への手だて ></p> <p>児童の発言、つびやきから考えを見取り、よさを認めながら、他の見方にもふれ、見方や感じ方を広げていく。</p> <p>< Bに達していない児童への手だて ></p> <p>児童との言葉のやりとりから、感じたことを徐々に具体的なものにしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><本時の評価項目></p> <p>A [十分満足できる状況]</p> <p>鑑 友人と絵を見せ合い、想像した場面の様子や雰囲気をどのように工夫したか様々な視点から感じ取っている。 (図画工作科ノートの様々な記述、観察、つぶやき、ビデオ)</p> <p>B [おおむね満足できる状況]</p> <p>鑑 友人と絵を見せ合い、想像した場面の様子や雰囲気を自分なりの見方で感じ取っている。 (図画工作科ノートの記述、観察、つぶやき、ビデオ)</p> </div>
20分	<p>3 作品の構成を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチを組み合わせ、作品の構成を考える。 並べたものをデジタルカメラで撮影する。 	<p>○「みっけタネ」④で、形や色を手がかりとした構想の視点と思考のプロセスを提示する。</p> <p>○アイデアスケッチを組み合わせる手順と方法を「みっけタネ」を使い、教師が手本を見せながら示す。</p> <p>○並べたり並べ直したり、トリミングをしたり重ねたりして画面構成を考える。</p> <p>○登場人物の気持ちや動き、場面の雰囲気を中心に描き、児童と会話しながら表現意図をつかみ、細かい助言をしていく。</p> <p>○並べたものをデジタルカメラで撮影しておき、次時の下描きの時に生かす。</p> <p>○次時にも続きを行うことを知らせる。</p>

V 本時の学習（5～9時間目／9時間）

1 ねらい

物語の中で、心ひかれた場面の様子や登場人物の気持ち、雰囲気などがよく表れるように、画面構成を考えながら製作する。

2 準備

教師：参考作品、「みっけタネ」、スポンジ、ローラーなど

児童：「図画工作科ノート」、絵の具、ネームペンなど

3 展開

過程	時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
		一線は〔共通事項〕を視点とした「みっけタネ」の活用、～線は「図画工作科ノート」の活用、□観点(評価方法)	
		<p>1 作品の構成を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチを組み合わせ、作品の構成を考える。 	<p>○「みっけタネ」④で、形や色を手がかりとした構想の視点と思考のプロセスを提示する。</p> <p>○アイデアスケッチを組み合わせる手順と方法を「みっけタネ」を使い、教師が手本を見せながら示す。</p> <p>○並べたり並べ直したり、トリミングをしたり重ねたりして画面構</p>

イメージを練り上げる段階	25分	<p>る</p> <ul style="list-style-type: none"> 並べたものをデジタルカメラで撮影する。 <p><構想する上で押さえておきたいポイント></p> <p>線や形がつくりだす動き、色の調子、材料の質感、組み合わせによって生まれる変化、響き合う配置、奥行きを感じや方向感、色の組み合わせによる強さなど</p>	<p>成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちや動き、場面の雰囲気を中心に描き、児童と会話しながら表現意図をつかみ、細かい助言をしていく。 並べたものをデジタルカメラで撮影しておき、次時の製作の時に生かす。 <p>< Bの児童への手だて ></p> <p>児童との会話から表現の意図を聞き取り、構想の視点と照らし合わせながら、製作へのアドバイスする。</p> <p>< Bに達していない児童への手だて ></p> <p>児童との会話から表現の意図を聞き取り、教師が具体的な操作を行いながら、製作へのアドバイスをする。</p> <p><本時の評価項目></p> <p>A [十分満足できる状況]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 心をひかれた場面の場所の様子や登場人物の気持ちなどを想像し、どのように表そうか様々な表現方法を考えている。 (観察、つぶやき、アイデアスケッチ、ビデオ)</p> <p>B [おおむね満足できる状況]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 心をひかれた場面の場所の様子や登場人物の気持ちなどを想像し、どのように表そうか考えている。 (観察、つぶやき、アイデアスケッチ、ビデオ)</p>
	160分	<p>2 製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 画用紙に下描きをする。 背景となる下地を彩色する。 登場人物や画面を構成するものを彩色する。 全体のバランスを見ながら仕上げる。 <p><仕上げのポイント></p> <p>全体のバランス、自分のイメージとの比較、細部の描き込み、など</p>	<p>○「<u>図画工作科ノート</u>」を参考に、<u>気持ちや雰囲気が表れているか確認しながら下描きをする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチと画用紙の大きさが違うので、登場人物が小さくならないように、人物や物と画面全体の比率に気を付けて描くように助言する。 表現方法を広げるきっかけとするため、いくつかの気持ちや雰囲気を表した参考作品を用意しておく。 ○<u>試し活動を振り返り、イメージに適した下地を彩色する。</u>その際、登場人物の気持ちや場面の雰囲気が表れているか、確認しながら表現していく。また、彩色は単色ではなく、何回も色を塗り重ねながら自分のイメージに近づけていく。 ○登場人物の気持ちや動き、役割に重点をおいて描き、背景とのバランスを考えて、背景に負けない強さで彩色する。 ○登場人物と背景を比較しながら、登場人物の位置、近景から遠景までの流れ、配色のバランスなどに気を付け、細部まで描き込む。 ○背景などの細かい部分については、ネームペンなどを使って描き込む。 <p>< Bの児童への手だて ></p> <p>児童の発言、つぶやきから考えを見取り、具体的なポイントを示しながら、多様な表現ができるようにする。</p> <p>< Bに達していない児童への手だて ></p> <p>児童との言葉のやりとりから、感じたことを徐々に具体的なものにしていく。</p> <p><本時の評価項目></p> <p>A [十分満足できる状況]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 場面の様子や雰囲気が表れるように、画面の組立てや色などを工夫している。 (図画工作科ノートの記述、観察、つぶやき、ビデオ)</p> <p>B [おおむね満足できる状況]</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 場面の様子や雰囲気が表れるように、画面の組立てや色などを工夫している。 (図画工作科ノートの記述、観察、つぶやき、ビデオ)</p>
20分	3	<p>友達の作品を鑑賞し、作品が表している物語を想像することを楽しむ。</p>	<p>○児童の作品を数点取り上げ鑑賞し、意見交換をしながら、作品が表している、物語を探りながら鑑賞を楽しむ。</p>